

2023年12月報告書

呉 悠

もくじ

1. はじめに
2. 授業
3. 授業以外
4. さいごに

1. はじめに

ボストン大学3年の呉です。今回の報告書では3年秋学期の様子をお届けします。

(この報告書は主に海外大生活に興味がある人向けに書いているのですが、大学の友人がこの報告書を使って日本語を学んでいることが発覚したので今回はきれいな日本語を書くことを心がけたいと思います。おたのもうします～)

2. 授業

1・2年生で○にそうになりながらも(早速きれいじゃない日本語を使ってしまった)勉強を頑張ったおかげか、今学期は勉強はほどほどに比較的明るく楽しく元気よく過ごすことができました。特に達成感とかはないですが、こうやって目的もなく放浪している時期に得る新しい刺激も人生の大切な要素なのだと思います。

- Drugs and Behavior

今学期の推し授業です。アルコールや大麻などの脳に影響を及ぼす薬物や関連する精神疾患について学びました。自分自身はお酒やタバコをしないタイプなのですが、大麻などが身近なアメリカの大学で、薬物がどのようにアメリカ社会を形成しているかを垣間見ることができて興味深かったです。「なぜ食べながらお酒を飲む方が良いと言われているのか？」といった身近な疑問から、依存や耐性ができる脳のしくみまで、神経科学的な切り口から学びました。

実際に友人と会話する時に各国の薬物事情を教えてもらい「あ、これ授業でやったところだ！」と重要性を感じることができたのがよかったです。日々の授業と色々な地域から来た学生との関わりが掛け合わさって、世界の問題をより身近に感じられるのがこの大学のいいところだなと思います。

- World Cities: Tokyo

東京というまちがどのようにしてできているのか、文学作品や映像などを通して学ぶ授業です。軽めの授業かと思いきや、女性の社会的抑圧と性欲の葛藤や男性の内に隠された変態性と孤独、新宿二丁目のゲイタウンにおける排他性など、かなりディープな東京の文化について知る羽目になりました。

普段東京で暮らしていて感じていた性別による扱われ方の差は昔からの日本独特の文化から来ていたんだなあとか、日本ってアメリカの学生からはこんな風に見られているんだなあとか、自分の育った国について自分が体験したものと異なる側面から学ぶことができてよかったです。アメリカにいと日本について説明する機会が多いので、今まで言語化できなかった感覚を表現する手助けになりました。(売春やパパ活・風俗は浮気にカウントされるかなどクラスメイトが大真面目に語っていておもしろかったです。)

- Foundations of Data Science

EMやマルコフ連鎖などデータサイエンスの基本的な概念を学ぶ授業です。データ分析の手法だけ学んでも「なんでこうしたら求まるの？」となりがちで毎度忘れてしまうので、この授業ではなぜその手法が導き出されるのかの考え方の部分に焦点を当ててわかりやすく解説してくださったのがよかったです。

課題やテストも暗記や計算問題ではなくて理論の理解のための問題が多く、難しかったですがTAやクラスメイトにヒントをもらいつつ良い頭のエクササイズになりました。問題解決のために今ある条件を整理して結論を導き出す力はどの分野においても役立つと思うので、CSの授業を通して自分に足りなかったこの力を少し身につけることができたのが嬉しいです。(逆に理論よりも実際のデータ分析の経験を積みたいという方にはCSではなくData Science学部の授業がおすすめです。同じトピックでも学び方を選べるのも大きい総合大学のいいところかもしれません。)

- Introduction to Database Systems

データモデルやSQLなどのデータベース言語について学ぶ授業です。私をCSの世界に入れてくださった好きな教授が教えていたので取りました。課題でコードを書くための長い問題文を読むことへの耐性が出来てきた気がします。

- All-Campus Orchestra

オーケストラ再開しました。ヴィオラのメンバーがみんなおもしろかわいくて癒されていましたし、毎度耳が幸せでした。

3. 授業以外

- Global House

語学や異文化に情熱を注ぐ学生たちが寮の同じ階に住み、ミーティングやイベントを通して学び合うコミュニティです。今年は日本語グループのリーダーになり、私なりに日本について知っていることを提供しつつも、愛するメンバーやすてきな他言語のリーダーたちから世界について沢山学ばせてもらいました。全員が言語学習者なので、喋り方や言葉の拙さだけで他人を判断し切り捨てるような人がいないという点で居心地のよいコミュニティだなと思います。

実をいうと、元々日本語のリーダーをやるべきかかなり迷っていました。日本に関しては好きなのと同時にトラウマもあるし、日本の良く見える部分だけを切り取ってイベントにすることに何の意義があるのだろうか？在日外国人である私よりももっとリーダーにふさわしい人がいるのではないかと悩んでいました。

ですが、日本の中で育ちながらも同時に外国人として、或いはアメリカでの生活を体験した者として、複数のレンズをもつ私だからこそ伝えられることもあるのかなあと今では思いますし、何より博識で好奇心旺盛な友人たちから日々自分の思いもしなかった考え方を教えてもらえて勇気づけられています。いつもありがとう。

- 夏休み

前回の報告書で宣言した通り、夏休みは一旦インターンなど「将来のためにやっといた方が良さそうなこと」を捨てて、環境をガラッと変えて京都の旅館で仲居をしました。普段アメリカのアカデミックな環境で人間の上澄みみたいな人たちに囲まれて生きていたので、実社会では論理など通用しないことを再確認したり、原点に立ち戻って働くことや接客を通して様々な人と関わることの楽しさを思い出したりしました。

なにより一人で生きていける自信がついたのが良かったです。自分は生活基準を多少下げても幸せに生きていけるタイプだということが分かり、失うことが以前より怖くなくなりました。

- 進路について

日本の就活やボスキャリを見ていると、そのルートに乗らないと死ぬみたいな錯覚に陥りそうになるのですが、多分そんなことないので自由に生きようと思います。若くして評価されている人や分かりやすい夢を持っている人を見ると焦る気持ちもとても分かりますが、ないものねだりしてしまうのがないので私は今自分がもっているものや置かれた環境を最大限使って、自分の直感に従って私なりの生き方を模索していきたいです。結局はそれが一番の近道なのだと思います。

4. さいごに

いつも支援してくださっている財団の皆さま、ありのままの私を受け入れてくれてたくさんの刺激や名言をプレゼントしてくれる家族や友人たち、報告書を読んでもらったそのあなた、本当にありがとうございます。

質問や感想があれば気軽に教えてください：2eyecontact@gmail.com